

令和元年度第2回南砺市総合教育会議 議事録（要点記録）

- 1 日時 令和2年3月2日（月）午前10時00分～午前11時40分
- 2 場所 南砺市役所井波庁舎3階多目的ホール
- 3 出席者
- | | | | | |
|-----|------------|-------|---------------|-------|
| 構成員 | 南砺市長 | 田中 幹夫 | 教育長 | 松本 謙一 |
| | 教育長職務代理者 | 林 紀孝 | 教育委員 | 水上 和夫 |
| | 教育委員 | 竹部 俊恵 | 教育委員 | 高坂 真理 |
| 事務局 | 市長政策部担当部長 | 柴 雅人 | 地域包括医療ケア部担当部長 | 井口 一彦 |
| | 教育部長 | 村上 紀道 | 教育部参事こども課長 | 武田 秀隆 |
| | 行革・施設管理課長 | 石崎 修 | 教育総務課長 | 氏家 智伸 |
| | 生涯学習スポーツ課長 | 桜野 高弘 | スキー国体推進室長 | 水上 武司 |
| | 教育総務課副参事 | 北島 一朗 | 教育総務課主幹 | 堀 桂子 |
| | 教育総務課主事 | 勇崎 夏希 | 教育総務課主事 | 村上 千明 |
| | | | | |
- 4 傍聴者 報道3社
- 5 会議の概要

（1）開会あいさつ（田中市長）

小中高等学校など様々な教育機関が今日から臨時休校となりました。新型コロナウイルスの関係で国から様々な要請があり、対策本部を立ち上げて教育委員会とも情報共有をしながら進めていますが、ウイルスの実態が分からないこともあり、国民全体が何をどうすればよいのか分からないという状況にあります。色々な行事を取り止めてクラスターから広範囲に感染することを防ぐ、感染の拡大を抑えてピークを遅らせるということを国民全体で取り組まなければならない状況において、今回の政府の方針は評価をしたいと思います。しかし、この休校の要請が2月27日に出て、余裕のない中で3月2日を迎えることになり、かなり現場が混乱するだろうということも想定していました。教育長を始め、教育委員会も夜を徹して情報共有を図り、2月28日の朝には臨時校長会・臨時園長会を開いて意見を聞き、本当に慌ただしい中、今日から臨時休校がスタートしました。このあとのフォローアップ、そして臨機応変に取り組むことが大切だと思うので、教育委員会と一体となり、教育委員の皆さん、議会の皆さんと情報共有を図りながら進めていきたいと思っています。

本日は第2回目の総合教育会議ですが、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。また、日頃から南砺市の教育行政について、様々なご指導を賜り御礼申し上げます。

開会式も含めると2月16日から19日にかけて、とやまさんと国体2020が開催されました。今考えると全てが奇跡的で、開会を決めた前夜から雪が降り、一週間遅れれば新型コロナウイルスの蔓延によるスポーツイベントの中止にかかるようなタイミングでもありました。本当に皆さん方には心配をおかけしました。全国でも大会が開催できないところが多く、開催できてもコースを縮小して取り組んだところがほとんどだったのですが、富山県は全コースをしっかり作り、非常に良い大会だったということを言われました。今までの国体

とレベルの違い、周囲にホテルもない小さなスキー場で開催するということが非常に心配していたのですが、アスリートファースト、コースをしっかりと作るということが一番だと感じました。関係者の皆さま方には改めて敬意と感謝を申し上げます。

皆さま方の耳にも入っていると思いますが、公共施設再編計画の中で一番注目されるのが教育施設です。方向性について議論を進めているところですが、人口減少と将来を見据えたときにどのような体制がよいのかという観点で見た中で、将来的に小学校4校、中学校2校という数字が出ました。南砺市で生まれ育つ子どもたちにとって何が大切なのか、どのような環境がよいのかということなど、色々なことを考えながら方向性を導き出さなければならぬ一番重要な時期にきていると思っています。私たちは、それぞれの地域で義務教育学校化し、学びの場をしっかりと置いておくという計画を作っています。ぜひ皆さま方からのご意見を聞かせてください。

今回の会議では、公共施設再編計画の他に、利賀地域長期山村留学事業、南砺の子育て支援、児童・生徒に対する新規保健事業の実施について説明を申し上げ、ご意見を賜りたいと思います。最後には皆さま方から、今回の新型コロナウイルス対策についての市の取組みに関するご意見もいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

これから取り組んでいくことが、教育振興基本計画の基本理念でもあります「未来を切り拓く南砺の人づくり」に繋がるよう、教育委員の皆さまと課題や方向性について共有していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(2) 協議事項

① 南砺市公共施設再編計画の改訂について（教育部所管施設）

○教 育 委 員 今後の学校に関する動きが一番気になる。8つの義務教育学校に移行していくということが示された。それぞれの旧町部には、福光地域を除いて、小学校1校と中学校1校があって、基本的には小学校の子どもが中学校に上がっていく。その段階ですでに子どもたちの人間関係は固定化されつつあるのに、単級になって義務教育学校になると、小学校の子どもたちイコール中学校になってしまう。私は、基本的に小学校はそれぞれの地域に必要だと思っている。行政センターが無くなるのに、学校も無くなると本当にその地区のまとまる拠り所が無くなる。そのようなことも含めて、義務教育学校として各地区に残していくという方向性にしたのだと思うが、10～20人の子どもでどのような部活動ができるのか。現在の平中学校を見ても、本当に限られた活動しかできていないように感じる。やはり中学校はある程度の生徒数を確保して、他の地区と同じようなチームスポーツができるような体制がよいのではないかと思う。これは私の個人的な意見なので強制ではないが、保護者は本当に義務教育学校になる南砺市の学校に子

どもを入れたいと思うか、子どもを義務教育学校で9年間育てたいと思うか。小学校は少人数でも、中学校は色々な部活動もできて、切磋琢磨できるような環境を保証してあげないと、他の中学校と同じような教育効果があるとは思えない。地区に学校を残すことには賛成だが、少し考慮していただきたい。保護者目線、今から通う子ども目線の議論もお願いしたい。

○教 育 長 教育委員さんの言われることはもともとだと思う。再来年から始まる（仮称）井口地域義務教育学校の教育が世間に受け入れられるか、義務教育学校として運営していけるかが要になる。義務教育学校とは別に、この3月から市内全中学校の部活動の改革にも取り組んでいく。委員さんが心配されていることの克服がかかっていると思うので、ぜひ成功させたい。義務教育学校を全部の地域に残して、地域と一体化した特色のある教育が個性的に花咲く南砺市にしたいと思っている。現在の予定では、令和18～27年の間で義務教育学校になるが、この段階では複式学級はない。複式になるのであれば、やはり考えなければならないと思うが、旧町部は全部単式学級になっている。義務教育学校にすることで、教員の数が増え、それぞれの教員の良さを小学校・中学校の両方の子どもに活かしていけると思っている。公共施設の再編を進める中で面積を半分にしなければならない。この条件は、市が市として成り立つ上で、守らなくてはならない要件だと思う。ただ、お金のことはもちろんだが、市民や子どもたちが住み続けたいと思うような地域であることが、教育という点では何より大事にしたいことだと考えている。現在の案で全て決まったというわけではない。福光地域だけは中学校が2校あるので、その方向性についても、その時点のPTAと住民とで判断することだと思っている。今後の結果によっては、義務教育学校にしていくという方向性すら変えなければならない可能性もあるということを踏まえ、決意をして、市長とともに取り組んでいきたいと思っている。

○市 長 教育委員さんが言われたことはよく分かる。現在の方向性は、将来的な子どもの人数のシミュレーションを行った上で示している。この計画の中に小学校と中学校の将来的な数字を書くと、どこの学校を残して、どこの学校をなくすのかという議論が始まる。どの地域のどの学校が無くなるのかといった約15年先のことをここで決めることができるのか、そのようなことも含めて考えることも大事だと思う。まずは（仮称）井口地域義務教育学校をしっかりと地域に根付かせながら、部活動などについても議論していく。その議論がスタートしな

い限りは約15年後というのは見えてこないと思う。当然このような計画は数年に1回、見直しを含めて考えるので、今後はその時の保護者、さらに次の世代の方とも議論をしていかなければならない。ただ、私たちが教育委員さんやPTA関係の方と議論を交わして、約15年後の未来の世代について、責任をもって、今の段階で考えられる最良の道を選ぶということが大事だと思う。まずは、地域でしっかり中学校まで育てる、そういう思いのある地域を作っていきたい。南砺市の現在の方向として義務教育学校ということを提案させていただきたい。教育委員さんの言われるように小規模で同じようなクラスでそのまま上がってよいのか、部活動はどうするのかなど、課題はたくさんあるので、しっかり考えていかなければならないと思う。

○教 育 委 員 先日、新聞記事を見ていたら、子どもの教育や地域のことを考えてバランスをとったということが、市の教育委員会のコメントとして新聞に載っていた。私自身もこのコメントには同意していて、学校が地域の中心的なところであるなら、この提案の内容は私としては妥当だろうと思う。今後、まず洗礼を受ける（仮称）井口地域義務教育学校の動きを細部に渡って、選んでくれた保護者や子どもの思いにまで調査をしていくということが非常に大切だと思った。（仮称）井口地域義務教育学校が持つ学校としての特色、学校そのものの魅力をもっと分かりやすく打ち出したほうがよい。どういう学校にしたいのか、コンセプトは何なのか、ローカルとグローバルという2つをどのような形で教育に具体化していくのかを打ち出していくことで、この学校の1つの姿が見えてくるような感じがする。そういう意味では、（仮称）井口地域義務教育学校の動きを数値として見たり、思いというものも集めたりしていく必要があって、その中で展望がどう開けていくのかを見ていかなければならないと思った。

○教 育 長 全くその通りだと思う。今の教育制度で、今と同じままのスタイルでこのまま人口が減っていけば、やはり教育委員さんの言われるように中学校は成り立たない。現在でも部活のことを考えるともう限界だと思っている。今後、色々な工夫をしながら小規模校の問題点をどこまで克服できるのか、それらを全ての小中一貫校、それと（仮称）井口地域義務教育学校が先導を切る形で試していく。試すというのは悪い意味ではなく、一番よいと思うことに挑戦しながら、しっかりと市民の理解を得られるようにしていきたいと思う。教育長になる前、大学の教員をしているときに、たくさんの国を回った。どの国へ行っても、学力というより人間を育てる教育は、だいたい1クラス20人前

後、100人余りの学校で、すべての教員が全員の子どもの顔や名前が分かる環境が人間を育てるという意味では最高なのだと言われていた。それは地域と一体化しているということでもある。どうして日本は40人学級なのか。40人学級なんて信じられないと言われるくらいなので、それを考えると、今の南砺市の教育の方が、クラスの人数も実によいのではないかということを思っている。教育委員さんの言われる通りだと思うので、きちんと対応できるように教育委員会と学校で準備を進めている。

○市 長 グローバルもよいと思うし、地域で育てられているというアイデンティティも大事だと感じるので、そのようなことが実現される(仮称)井口地域義務教育学校であればよいと思う。私の個人的な意見だが、部活動制度が今後どうなっていくかということに大変疑問を感じていて、高校の部活動についてはなくなるのではないかと思っている。私が携わっている部活動は、25年経つとスポーツクラブ化しないと存続できないという話を聞いている。どこの地域へ行っても、全てがスポーツクラブ化するという中で、青少年の運動を育成していく流れが出てくるのではないかと思う。少なくともスポーツクラブへ向かっていく競技も中には出てくるだろう。文化部でも色々な人たちがいないとできない部もあって、小さいからできないという選択肢が無くなるためには、大会やコンテストの形自体が変わっていくことも必要なのではないかと感じている。

○事務局 小中一貫校と義務教育学校のメリットは、大きく2つある。1つは中1ギャップの解消で、もう1つは教育効果がある。学力などが、小中一貫校、それから義務教育学校では上がっているというデータが出ている。これは文部科学省が発表しているデータになる。実は南砺市において、昨年の2学期の不登校数が小学校は6名、それが中学校に行くと32名になる。5倍以上の人数に増えている。不登校の子どもたちを何とかしなければならぬという大きな課題を解決する意味においても、小中一貫校、義務教育学校に向けての方向性は、正しいのではないかと思っている。

② 利賀地域長期山村留学事業について

○教育委員 兵庫県の神河町を予算の参考にしているそうだが、そこではどのような形でいつから取り組んでおり、何人留学生が来ているのか。学校規模はどれくらいのものなのか。

○事務局 10年ぐらい前から始めており、年によって10人前後の年もあれば少ない年もあると聞いている。学校規模は、利賀よりは大きい学校

だったと記憶している。

- 市 長 ホームページを見ると、山村留学神河やまびこ学園というページがある。だいたい1万2千人程度の町で、3校くらいの小学校があるようだ。全国を色々見た中で、ここが一番近いだろうということで参考にしたのだと思う。ご理解をいただきたい。
- 教 育 委 員 PTAの立場から言うと、この事業は皆さんに全然知られていない。認知度がすごく低い状況にあるので、今の子どもを育てている世代を中心にもっとPRが必要なのではないかと思う。
- 市 長 市の事業で行っていることなので、市全域にお知らせするという事は当然だし、中には市内の方で山村留学したいという方もいるかもしれない。その場合はどうするのか。また、近隣市町村にはお知らせしているのか。東京をメインにPRしているが、やってみたら変わったことが起こるかもしれない。
- 事 務 局 そこまでの想定はしていなかったので、今後そのような機会を考えたいと思う。
- 市 長 市内にこの事業のことを周知することは大事だと思う。
- 教 育 委 員 利賀小学校は現在約10名の児童、利賀中学校には約5名の生徒がいて、複式学級になっている。単級で9～10人程度であれば複式の心配がないので保護者も安心かもしれないが、受け入れる学校の規模があまりにも小さいと保護者の反応が気になる。これまでに事前のキャンプなども実施しているし、この事業を行うために大変な費用と労力がかかっているのも、そういう意味ではぜひ来てほしいと思う。その反面、1年で交代していくようなかたちを取ることも踏まえると、個人的にはなかなか難しいのではないかと思う。ただ、相当の費用がかかるので、利賀地域はもちろん、市全体に対してもそれだけの教育効果があるということをアピールして、ご理解いただいた上で、この事業を進めていただきたい。
- 事 務 局 多額の公費を使うので、教育委員さんが言われたように、南砺市の子どもたち、そして南砺市の地域にも効果が生まれるように進めさせていただきたい。長期留学の期間については、1年で交代するという決まりはなく、2年生で入ってきて卒業するまで在籍するという事も可能になる。複数年ということも可能としている。長期留学の効果については、応募された保護者の方、委託予定の育てる会に話を聞いたところ、学校で学力を高めるとともに、地域で生活するという事に高い価値を見出しているという話があった。小規模の学校であっても、南砺市の自然の中で子どもを育てる、地域との関わりの中で子

もを育てるということに、留学される子どもの保護者は魅力を感じているということになる。南砺市の子どもたちにとっても良い効果が出るように、地域にとっても良い効果が出るように事業を進めていきたい。

○教 育 委 員 市外から子どもたちが入ってくることによるメリットを目的として、このような事業を行うのだとすれば、利賀小学校・利賀中学校として、特色ある学校づくりやカリキュラムづくりをしていかなければならないと思う。利賀地域に来てもらい地域の良さを見てもらうとともに、住んでいる子どもたちが地域外の子どもたちと交流することによってどのようなメリットがあるか、それを学校の魅力として考えていけば更によいのではないかと思った。

○事 務 局 令和3年4月から(仮称)井口地域義務教育学校で小中一貫教育をスタートする。同時に南砺市の他の学校でも小中一貫教育を始めるため、各学校で準備を進めている。共通部分はあるが、各学校でそれぞれ特色を出すということになっているので、利賀地域における教育カリキュラムについても、山村留学生の受け入れを意識したようなかたちで考えていただきたいと思う。

○市 長 私の希望としては、最終的に子どもが利賀がよいと思ったら卒業するまで在籍して、それにお母さんが私も利賀がよいということで空き家を借り、お父さんは週に1回帰ってくる、このようなイメージを持っている。子どもが選んだところに保護者が一緒に来るという時代が少しずつ来ているのではないかと、そのような教育環境や居住環境、ふるさとづくりをしていくことが大事ではないかと思っている。住んでいる地域が良いところだと子どもの中で誇れるような教育が必要だと思うので、特色のある利賀小学校・利賀中学校にしていっていただきたい。

③ 令和2年度からの南砺の子育て支援について

○教 育 委 員 保育料が無償化になり、国もそういう分野に予算をまわしていることがわかる。南砺市も、子どもを生み育てる環境が非常に整っているということをもっとアピールしていかなければならないと思う。出生祝い金やその他の制度にしても、制度があるということをお知らせするだけでなく、その制度を利用した人の声もあわせて掲載するようなアピールの仕方が必要なのではないか。そうすることで、それを見た人が、それなら私もというように続いていく気がする。この分野に関しては、他の市町村も相当力を入れていると思うので、南砺市ならではの良さをアピールしていくことも考えていただきたいと思う。

- 市長 その通りだと思う。
- 教育委員 私は、ワークライフバランスということが本当に大事だと思っている。8ページの資料に「企業や社会全体の取組み」という文言があるが、この「企業」については南砺市だけに留まらないと思う。他の市町村との取組みや連携という部分はどのように考えているのか。
- 事務局 各市町村間の取組みということはほとんど実施していないが、国や県でもこの施策を進めているので、そこと連携しながら進めていくことになる。南砺市には子育て応援企業認定制度があるので、企業の担当部署と連携を取りながら進めている。令和2年度以降もこのような施策をより強化しながら、今まで取り組めなかったところにも取り組んでいきたいと思っている。中小企業診断士などの専門家の方たちを派遣しながら、どういうところが改善できるか、どのようにしたら取り組めるか、少し踏み込んだかたちで考えていきたい。
- 市長 今回の新型コロナウイルスの件を受けて、これから働き方という点で、全体で助け合うという機運が非常に高くなるのではないかと考えている。ピンチをチャンスに変えていくためには、そこをどう取り組んでいくかということをお願いしていかなくてはならない。教育委員さんが言われるように、企業や社会全体という広い範囲になるので、我々行政として発信していくということも大事だと思う。「SNS等を利用した」ということが新規として書いてあるが、学校に関して、最近の若い方はラインとかで相談をしたりしているのではないのか。
- 教育委員 ラインはないが、メールで連絡はある。
- 市長 現在、健康管理に関することで、呉西6市に広がったポイント制の制度がある。そのようなことが今後、色々な子育ての面に関することにも広がっていくのではないかと考えている。

⑥ 意見交換

- 市長 本日から新型コロナウイルスによる臨時休校が始まった。色々なご心配、今後の成果についてどう情報共有するかということについてご意見をいただきたい。私は、これから何人くらい放課後児童クラブに来てどのような形になるのか、放課後児童クラブに行かせていない保護者たちがどのような問題を抱えているか、学校の先生方に家庭訪問してもらうのか、臨時で小中学校で働いていただいている皆さんへの対応はどうするのか、そういったことへの指示を出している。これらの対応について教育委員の皆さまからご意見をいただきたい。
- 事務局 現状をご報告する。放課後児童クラブについては、長期休業中の体制ということで8時半から開始している。土・日曜日の間にも、こど

も課で利用申込みの状況を確認していたが、「やむを得ない事情がある場合」というご案内をしているためか、普段の長期休業中より人数が少ないと聞いている。教育総務課のスクールアドバイザーが、朝から現地の状況を確認しに行っている。学校の先生方については、本日の14時から臨時校長会を開き、学校関係の課題・留意すべき点などを確認した上で、教育委員会から必要な指示をしたいと思っている。臨時職員の方については、子どもに直接関わる職種（スタディ・メイト、適応指導員、なんとなつ子まなびサポーター）の方に放課後児童クラブのサポートに回っていただくということも考えている。

- 市 長 給食についてはどうなるのか。
- 事 務 局 給食も停止するので、小中学校の臨時の調理員の方については、保育園の調理現場にサポートに回っていただくような調整もしたいと思っている。
- 市 長 臨時休校が始まったばかりで、様々な市町村の情報がどんどん流れてくるが、都会と南砺市では規模が違うので状況も変わってくる。今まで長期休業期間中に放課後児童クラブを利用して、すでに登録済の方もいるが、それ以外で新たな登録も募集してサポートしているということが大事だと思う。他市町村では、学校に自由に集まって来てくださいというような対応をしているところがあり、それが良いかのように言っている報道も見かける。しかし、学校に集まったら休校にした意味があるのかということにもなるし、給食だけは出さなければと言われる方もいるが、大勢で集まって食べることが本当に安全なのか。その判断が本当に難しい。実を言うと、保育園も放課後児童クラブも本来は集まらない方がよくて、それをどう理解していただくかという問題がある。まだまだ始まったばかりで、収束するまではこの状況が続くと思われるので、先生方がご家庭、本人と連絡を取り合うということは強く実施していただきたいと思う。
- 教 育 委 員 南砺市の場合は、保育園や放課後児童クラブは開くが、感染防止のためにできる限りご家庭での対応をおすすめするという案内が出ている。報道や他市町村の話を知っていると、市長さんが言われたように、どうしても家庭でみるできない子どもは学校に登校させてくださいと言っているところがある。それは全児童生徒ではなく少ない人数で、学校のあとは放課後児童クラブを利用して、普通どおりの時間に帰宅するという流れだと思う。実際に実施しているか分からないが、学年登校日のようなものを設けて、登校させた時には子どもたちを色々な部屋に分けて、濃厚接触にならないように対応するという

話も聞く。今日から4月5日まで休むと、夏休みより長いのか、同様くらしいの長期休業になるのに、その間、登校日もない、子どもも集めない、各家庭に任せるといふことによいのか。放課後児童クラブに集まって狭いところで長時間過ごさせているよりも、学校で濃厚接触しないように注意しながら、養護教諭による健康面のケアもある状況にいたほう方が安全ではないかという気がする。各市町村における様々な対応が出てくるといふので、そういうものを参考に考えていただきたい。できる限り家庭での対応をおすすめしますといわれたら、南砺市の保護者は問題があっても言いにくいだろうといふ。受け皿は作っておいて、本当に必要な方には対応するといふことを言っておかないと、他市町村と比べたら南砺市は手厚くないといふことを保護者が感じるのではないかといふ。

○市 長 教育委員会で協議したときは、放課後児童クラブでまずは対応できるといふこと、ただ状況によつて対応を変えなければならないこともあるといふことは言っていた。放課後児童クラブに大勢の子どもたちが来るという状況は当然よくないので、そのような状況にならないよう教室をどう使うか考えながら取り組んでいただく。近隣他市と相談しながら、最初は放課後児童クラブで対応することで進めてきたが、日々の状況や他市町村を参考にしながら、その都度変わる可能性があるといふことをご理解をいただければと思ふ。卒業式はどうか、終業式はあるのか、登校日があるのかについては、しっかり議論して、定期的に必要になるといふことであれば早めに告知しなければならない。特に卒業式については、どのような形になつても実施したいと思っている。ただ、どのように行うかといふことについて、もう少し詰めてから皆さんにご相談したい。在校生なしの卒業生のみで実施した場合、校長室でもできるような規模の学校もあつて、市内だけでもいくつかのパターンが考えられるので、整理をしてからお話したい。

○事務局 本日14時から校長会を開き、家庭訪問、電話連絡など、各家庭での子どもたちの様子の把握について話をする。もうひとつは、卒業式と終業式について協議する。校長先生方に原案を考えていただき、4日にもう一度臨時校長会を開いて取りまとめる予定にしている。校長先生の思い、学校の思いを大切に、最終的に教育委員会で決定するといふ流れで進めたい。

○市 長 本日の14時からの校長会で、しっかりご意見をお伺いして方向性を出すといふこと、ご理解をいただきたいと思ふ。

○教 育 委 員 2月29日、3月1日に相談窓口を開いておられるが、だいたい何件くらいの相談があつて、どのような内容であつたか教えていただきたい。報道を見ていると、先の話にあつたように、学童保育に小学校の空き教室を開放するというのを厚生労働省も言っているし、他市町村では分散登校というようなことも言っている。私としても、皆さんの言われるように、状況把握の上で、南砺市も柔軟な対応をとることが今後は必要になるだろうと思っている。4月5日まで休みということを行っているが、今後の状況でどうなるのかということについても柔軟な対応が必要だと思う。新型コロナウイルスに係るお知らせ文を出されて、詳しくはHPをご覧くださいというようなことが書いてあつたので、市内小中学校のHPを見たが、非常にばらつきがあつた。お知らせ文を配った段階でHPには新型コロナウイルスの対応について一応書いておくべきだろうと思つたが、何も書いていない学校がいくつもあった。その一方で、きちんと対応について調べて載せている学校もあつた。HPを見てくださいという記載があつて、HPを見たら確かに書いてあるという信頼感が、このような状況下では非常に大事なのではないかと思う。塾などについて、特に入学試験と絡んで中学校3年生の子どもに対する動きがどうなっているのか非常に気になっている。富山県内で一番大きな塾のHPを見たが、何も書いてなかつた。そのようなところも確認されたらよいと思う。

○事 務 局 学校のHPの件については、私自身確認していないので、確認した上で本日の校長会でお知らせしたい。空き教室の利用や分散登校については、新聞報道等を見た。全国の感染状況や県内市内の状況を踏まえて、今後必要ならば検討していきたいと思う。塾の動きについては、教育委員会としても気にしている。正確な情報はまだ把握していないが、一部の塾では普段通り開いているという話も聞いているので、注意喚起については市からできると思っている。2月29日、3月1日の相談窓口については、教育総務課・こども課の両課で職員を配置して行った。2日間で約20件のご相談があり、放課後児童クラブの利用に関する内容がほとんどだった。やむを得ない事情とはどういうことなのか、本当に困っているのか追加で登録できるのかといった内容だった。今回の休校についての不平や不満はほとんどなかつた。国の要請ということが後ろにあるので、致し方ないと思つておられるのだと思う。放課後児童クラブに関して、こちらへ相談できずに悩んでおられる方もいると思うので、丁寧に柔軟に対応をしていければと思っている。

- 教 育 委 員 校長会で話し合っ決めてということは、非常に民主主義的でよいような気がするが、やはりこのような緊急事態のときには、教育長さんを含め、教育委員会としての方針をしっかりと出しておいていただきたい。校長先生方の意見は当然聞かなければならないが、今の話だと校長会で決まるかのように感じた。今は本当に緊急事態なので、校長先生方の多数決で決まるようなものではなく、南砺市教育委員会としてこの事態をどう乗り切るのか、どのように進めていくのかということを出しながら、校長会で話し合っいただきたいと思う。
- 事 務 局 校長先生方に相談した上で、最終決定の前に教育委員さんのお考えを伺ってから決めたい。
- 教 育 委 員 感染者が出ないことを願っているが、南砺市内の学校で誰か感染者が出た場合はどこまで公表するのか。他県の場合は学校の名前が出ていたが、もし感染した子が特定されると、その子自身もご家庭も大変な目に遭うことになりかねない。そのあたりの危機管理について、どこまで公表するのか教えていただきたい。
- 市 長 厚生センターから県に一番に情報が入る。その中で富山県がどこまで発表するかということと揃えたいと思っている。県の場合とか政令指定都市の場合とか色々な違いはあるかもしれないが、南砺市の場合には富山県になるので、富山県の中でどこまで発信してよいかという判断をゆだねることになる。間違った情報が流れないということは当然だが、絞られすぎても色々な憶測が飛び交うことになるので、どこまで公表するかというのは本当に難しい。学校名については富山県の場合は公表しないというイメージでいるが、感染者が滞在した場所に急に消毒が入ったりすることで明らかになることもある。そのあたりをどうするかという情報だけは県と共有して、変な噂が立つようなことにはならないようにしていきたい。心配ごとはいくつもあるが、教育委員さんの言われるように、風評被害と最終的にどこの家かということが特定されることが一番怖いと思っている。このあたりをどうするかというのがこれからの課題だと思っている。外国では外出禁止令を出して徹底的に対応している国もあるが、日本は規制がゆるいので、もうすでにどこから入るか分からない状況になっている。たとえ感染しても8割くらいは軽傷ですむが、風邪かもしれないと思って、どんどん病院に行って、病院の中で感染が広がるのが非常に恐ろしいので、南砺市の場合もそうならないように気をつけている。病院とどのように対応するか考えているが、非常に難しいと思っている。

(4) 閉会あいさつ（松本教育長）

今回の新型コロナウイルスの件で、学校も大変慌ただしくなりました。28日の朝に先生方に言ったことは、まず教育課程を休止して、感染防止を徹底しようとしている、その意味を子ども達に指導して、月曜日からはきちんと家で過ごし、少しでも早く収束させる、その一点で対応してほしいということでした。これから保育園も学校も一丸となって子どもたち、それから保護者が安心できるよう努めて参りたいと思います。この週末で南砺市が素敵だと思ったことがありました。小規模多機能自治で子どもの居場所づくりをしているところや退職した教職員など色々なところから、子どもを集めようか、子どもを見てあげようかという声がたくさんありました。これほど嬉しいことはなく、やはり地域と学校が一体になっている環境はよいと思いました。ただ、今回の休校の意図は、クラスターを作らない、一刻も早く収束させるという一点で、学校さえ休みにして、今日を迎えています。このあとの3月の対応をしっかりしながら、収束宣言が出ればすぐにでも始められるように取り組んでいきたいと思っています。

4月からは、市全体で新たな各種計画を実行していくことになり、チーム担任制も始まります。（仮称）井口地域義務教育学校の開校も1年後に迫ってきました。これから皆さまのお知恵をお借りして、教育委員会、学校、保育園、地域が一丸となって、子どもたち、市民のために頑張っていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。